

近畿地区建設工事安全対策推進協議会（舗装部会） 現場点検合同パトロール報告

近畿地区建設工事安全対策推進協議会※（舗装部会）にて、11月11日に（一社）日本道路建設業協会関西支部・近畿地方整備局現場点検合同安全パトロールを実施しました。
当日の指摘事項と改善策等を紹介しますので、各現場においても安全点検に活用してください。

※安全対策の確立に向けて「公共工事の発注における工事安全対策要綱（平成4年7月1日）」が定められており、同要綱を踏まえ、現場における事故の実態並びに安全管理上の問題点を明らかにし、これに対応した具体策の検討を行うため、直接、工事を施工する建設業界との意見交換の場として「近畿地区建設工事安全対策推進協議会」が設立されています。

「地下埋設物」への指摘



埋設物の目印をすべき。



改善策

- ① カラーコーンを利用した目印とノボリを設置。
- ② 通路として利用している箇所では、表示シートに加えてノボリを設置。



「消火栓ホース格納庫位置」への指摘



消火栓ホース格納庫の前に単管バリケードがあり、扉が開けにくい。



改善策

消火栓ホース格納庫の位置を変更。



「番線の端末処理」への指摘



ウエイト同士を結束固定する番線の端末が歩行者通路側にあり危険。



改善策

通路とは反対側で端末処理する。



好事例



マットを敷き、歩行者通路を明確にし、足元の安全も確保している。



作業員のヘルメットに赤点滅表示を取付け、所在を明確にしている。



歩行者・自転車の通行時に、積極的に声掛けをしながら誘導している。



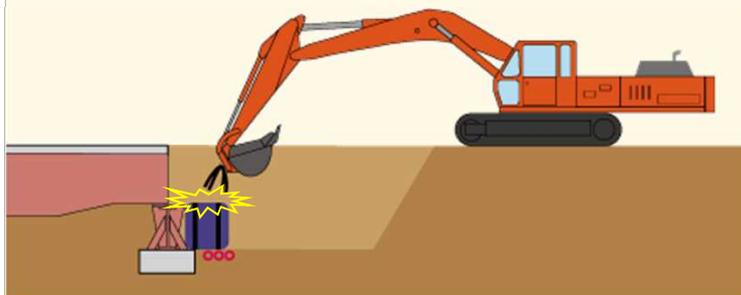
事故防止に向け、再度の安全確認を！

地下埋設物の明示・情報共有はしっかりと！ ～情報不足が事故に繋がります～



前頁の合同パトロールでの指摘にもあるように、地下埋設物を明示することは事故を防止するうえでとても重要です。下記事事故例のように、地下埋設物の存在を認識していても、**関係者全員で情報共有されず、地下埋設物の存在を知らない作業員が掘削を行って事故につながる**こともあります。

大型土のう撤去作業中、劣化により大型土のう袋が破断



掘削による撤去作業に切り替えた後、大型土のうと一緒に地下埋設管を引っ掛け、損傷



【事故概要】 仮橋の撤去作業中、橋台際に設置されていた大型土のうが支障となったため、元請職員が、近くで作業をしていた下請の作業員に、バックホウ（0.75m³級）で撤去するよう、指示した。

作業員は、クレーン機能付きバックホウで大型土のうを吊り上げて撤去作業を行っていたが、大型土のうの劣化が激しく、袋体が破断したため、掘削による撤去に切り替えたところ、地下埋設管を一緒に引っかけてしまい、配管3本を損傷した。

【主な要因】 ①支障物件の有無については事前協議により把握していたが、作業員に大型土のう撤去の指示を行う際に、埋設管の存在を周知することを失念した。
②施工計画書では、既設埋設物に支障を及ぼさないよう必要な措置を施すこととなっていたが、事故当時、マーキング等の注意喚起表示はされていなかった。

【再発防止対策】 ①地下埋設物箇所にコーン・標識等により注意喚起表示を実施。
②地下埋設物対応を含めた作業手順書に見直しを行い、作業員にも周知・教育を行う。

協議・調査・立会・試掘・目印を確実に



- 台帳や図面から埋設物の情報を整理し、施工計画書に明示しましょう。
- 埋設物確認のため、埋設物管理者及び監督職員（必要に応じて河川または道路管理者）と立会を実施しましょう。
- 試掘や近接作業前には、関係作業員全員に作業手順と埋設管の種類及び特性を事前に周知し、手順通りの確実な作業を行いましょ。
- 試掘や近接作業時、埋設物の周辺は手掘り掘削を行いましょ。ピックやツルハシなどを使用する場合は埋設物に接触させないよう慎重に作業しましょ。
- 埋設物を確認した後、確認位置に杭や旗などの目印、路面上にマーキング、注意喚起看板の設置などを行いましょ。
- 管種・管径・埋設平面図、緊急連絡先、避難経路図などを掲出して安全の「見える化」を図りましょ。
- 地下埋設物に関する指示や確認を一本化するため、地下埋設物責任者を選定するなど、指示システムを明確にし、指示漏れ・確認漏れを防ぎましょ。



無事故で明るい正月を迎えましょ
～万全の備えで事故防止の徹底を～



- 新型コロナで今年は例年とは異なる年末年始になりそうです。人や交通の動きがいつもと違うことも予想して、例年以上に立入禁止や工事箇所、危険箇所の明示を心掛けましょ。
- 休工箇所や危険箇所には必ず保安施設を設け、夜間には保安灯を設置しましょ。
- 交通に支障を及ぼさないよう、できるだけ工事材料、機械、器具などを道路上から撤去し、極力工事範囲を小さくしましょ。
- 保安施設や工事材料が風で飛ばされないよう、堅固に固定しましょ。
- 工事材料や機械などの盗難防止対策を講じましょ。
- 休工期間のパトロール体制や連絡体制は、関係者全員で共有しましょ。
- 長期に現場閉所するときは、特に対策をより厳重にしましょ。

